

第16回葛飾図書館友の会総会開催

活動報告や計画など、すべての議題が承認・可決される

新たに夏休みに、“子ども映画会”

「図書館川柳大募集」も実施予定

葛飾図書館友の会の第16回総会が4月22日(土)午後2時から区立中央図書館会議室で開催されました。山浦副会長の司会で、会則で定められた開会条件をクリアしていることが宣言され、議長を板倉さんをお願いして総会は開始されました。鶴岡会長の挨拶のあと、新井中央図書館長のご挨拶を受けました。今年度は中央及びお花茶屋図書館の図書館機能の“リニューアル”を予定しており、来館者がゆっくりと落ち着いて利用できるように、また高齢者や障がい者にやさしい、よりよい図書館を目指していく「改修工事」をスタートしていくので、是非友の会とも意見交換をしたいとの話でした。

ご挨拶をいただいた
新井中央図書館長

各委員会・クラブからの2022年度の活動報告

総務委員会はコロナ禍により中断していた葛飾ろう学校でのブッカーかけ作業などの活動が再開したこと、広報委員会は「友の会通信」を2回、毎月「たんしん」を発行したこと、ナイトシアタークラブは毎月第2土曜日の午後6時からDVD映画の上映を行い、毎回50名前後の来館者があること、おはなしくらぶは毎月第1土曜日午後3時半から、すばなしや絵本・手遊びなどの「おはなし会」を継続して、毎回30名前後の参加を得ていること、CD・DVDコンサートクラブは偶数月にクラシック音楽を特集してテーマを決め、まもなく100回目を数えること、多読クラブは3カ月ごとに英語多読入門講座を開催し、新たな参加者や要望・照会が増え、リラックスしたイベントになってきたこと、イベントクラブは第12回目の友の会ウィークと第9回新春かるた会(2面参照)を3年ぶりに実施し、ウィークには新たに「子ども映画会」の開催と図書館川柳を募集し、ともに多くの参加者と応募があったこと、そして読書クラブからは偶数月に課題本を選び熱いトークを行い、遠方からの参加者もあり安定した活動になっていることなどの報告がありました。報告は拍手で承認されたあと、メールでの会の発行物の受け取り会員がほぼ半数にのぼり、また図書館職員の方などから未使用の年賀はがきなどの提供などにより郵送費の節約に協力してもらっていることやほぼ予算通りの執行があったことなどの2022年度の会計報告があり、監査報告とともに承認されました。

次に2023年度の活動計画(案)の審議に入り、コロナ禍前とほぼ同様な通常の実施を行うことを中心にした計画についてそれぞれの委員会やクラブから趣旨説明がありました。今年は夏休みに図書館川柳と新たに「子ども映画会」を企画することや、要望のあった「図書館ボランティア草加」からの交流を行うことなどの計画が拍手で承認されました。最後に予算(案)が提案され、すべての議題が承認・可決されて総会は終了しました。なお、今回は総会後にこれまで実施してきた「ライブラリーカフェ」はお休みしました。

「新春かるた会」を3年ぶりに開催 3位におかあさんが入賞 初の快挙



コロナ禍により中止していた『新春かるた会』を、1月3日(火)午後2時から3年ぶりに中央図書館会議室1にて開催しました。多くの方々に参加していただけるか不安もありましたが、37名(大人20名、子供17名)の参加をいただき、熱戦が繰り広げられました。

鶴岡会長の挨拶、ルール説明の後、5グループに分かれ、おはなしくらぶの沢辺さんに読み上げてもらっての「かつしか郷土かるた」を開始。皆楽しみながら、しかし真剣に札を取り合いました。

続いては百人一首の絵札を使う「坊主めくり」の競技。これは運が左右するので、裏返してある札を取る時はドキドキします。あちこちで歓声が上ったり、ため息(?)が聞こえてきたりと、楽しく進みました。

そしていよいよ、百人一首の競技に入りました。まず一斉に予選を行い、続いて各グループ1位の人が一つのテーブルに集まって決勝戦を実施しました。上の句が読み上げられるや否や正しい札を取る小学生・中学生がおられるのを見て、司会をしながら感心しました。この決勝戦での1位は中学3年生で39枚、2位は小学2年生の26枚、3位は小学1年生の娘さんと一緒に参加されたおかあさんで23枚でした。最後に表彰式を行い、決勝戦を戦った5名の方々に図書券や図書館バッグが賞品として鶴岡会長から贈られました。

これにて『新春かるた会』は無事に幕を閉じました。参加された方々に楽しんでもらえたようで良かったです。友の会役員や会員の方々に当日の準備・進行に多くのご協力をいただき、また図書館からは賞品の図書館バッグや参加賞の提供などをしていただきました。深く感謝申し上げます。(イベントクラブ 北野達也)

まもなく150回を迎えるナイトシアター

中央図書館で毎月第2土曜の夜、シネマニアが鑑賞

中央図書館の全面的な協力のもと、原則として毎月第2土曜日に開催(開場は午後5時30分、上映開始は午後6時)しているナイトシアターには毎回50人前後の来場者が集まり、開場前には行列が出来ることもあります。図書館に新規購入してもらったものの、コロナの流行でこれまで上映出来なかったDVDを中心に、区内図書館で初上映の映画(*付きタイトル)を用意しています。熱心なファンも多く、ポスターや上映日当日、来場者に配布する簡単な解説文の作成に苦労しながら、少ないスタッフですが、活動に手ごたえを感じています。以下は、今後の上映予定作品です。

2023年6月以降のナイトシアター上映予定作品

回	開催日	上映映画	内容
149	2023年 6月10日	恋とオンチの方程式*	2016年 日本 90分 監督:香西 志帆 出演:夏菜 平岡祐太 黄川田将也 吉田羊
150	7月 8日	幸福(しあわせ)	1965年 フランス 79分 監督:アニエス・ヴァルダ 出演:ジャン=クロード・ドルオー クレール・ドルオー
151	8月12日	トキワ荘の青春*	1995年 日本 110分 監督:市川 準 出演:本木雅弘 北村想 阿部サダヲ 古田新太
152	9月 9日	世界で一番しあわせな食堂*	2019年 フィンランド・英・中国 114分 監督 ミカ=カウリスマキ 出演:アンナ=マイヤ・トゥオッコ
153	10月14日	ブレイク☆ビーターズ*	2014年 ドイツ 91分 監督:ヤン・マリティン・シャルフ 出演:ゴードン・カマーラー
154	11月11日 (友の会ウィーク)	カミーユ・クロードル	1988年 フランス 166分 監督:ブルーノ・ニュイッテン 出演:イザベル・アジャニー
155	12月 9日	ある天文学者の恋文*	2016年 イタリア 122分 監督:ジュゼッペ・トルナーレ 出演:ジュレミー・アイアンズ
156	2024年 1月13日	赤い靴	1948年 イギリス 133分 監督:マイケル・パウエル 出演:モイラ・シアラー
157	2月10日	ロープ/戦場の生命線	2015年 スペイン 106分 監督:フェルナンド・レオン・デ・アラノア 出演:ティム・ロビンス
158	3月 9日	ビッグ・シック ぼくたちの大いなる目ざめ*	2017年 アメリカ 120分 監督:マイケル・ショウォルター 出演:クメール・ナンジアニ

区内図書館めぐり 第2回

上小松図書館

ふらっと寄れるコンパクトな空間

中国語、韓国語の本も充実

1977年（昭和52年）に上小松図書館は、都営住宅の一階を占めるワンフロアの図書館としてオープンした。入り口は開館当初からスロープになっていて、車椅子利用もできるようになっている。中に入ると、配置が一望でき、建物の両側に窓になっているので明るく、居心地よい図書館だなと思った。北側の窓からは公園の木々の緑が見え、南側の窓には、車や人の往来もあり、他の図書館と比べて、開放的な雰囲気が感じられる。あいにく背の高い書架が並んでいるため見通しがあまりよくないが、一般と児童室がカウンターをはさんで振り分け形式になっているので、両方の様子がわかってよい。

館長や職員に伺ったところ、全体のスペースが狭いため、どうしても書架が高くなるとのこと。また、会議室も狭いので人数制限もあり、なかなかイベントが思うようにできないことなどを挙げておられた。特にこの2、3年はコロナ禍の影響もあり、利用者も減っていたが、今年度からは映画会や児童向けの行事もおおむね順調に実施できるようになり、元に戻りつつあると話していた。



地域図書館として、ここ新小岩に開館し、奥戸地区図書館ができるまでは、この地域において数少ない生涯学習や情報提供の場としての役割を担ってきた。それだけに、地域に根差し、地域に愛されてきた図書館といえる。近所に住んで何十年もこの図書館を利用している方々は、自宅から近しい、困った時には職員さんに相談しやすい。また、長く利用し館内を把握しているので、本を探しやすいことも挙げておられた。しかし、スペースが狭いという理由から、講座や講演会が少ないので、もっと場所を確保して、図書館が地域の方の活動拠点になるようにして欲しいとの意見もあった。

この新小岩地域には、中国や韓国の方が多いので、特に外国語の本をそろえて、カウンターの前に置いている。ここへ来れば、母国語の本があるという安心感にもつながるし、また、音声ガイド翻訳機も置いて対応に活用しているとのこと、きめ細かい配慮がなされていると思った。

児童室の活動に目を向けると、保育園招待を活発に行っており、また、今年度から絵本についての講座を開始したという。一月には、お話しイベントとして、絵本を読んでクイズに答えるというアニメーションを企画し、楽しい行事もたくさん行われたという。まだまだ人数制限などの制約もあり、思うようにいかないが、少しずつ活動が再開され、活気を取り戻しているように感じる。

もうすぐ50周年を迎える、この上小松図書館は、この半世紀にわたる間に、着実に地域の方々のなくてはならない場所となっているようだ。これからもこの図書館が、より多くの方に愛される場所になって欲しいと願うばかりである。

（広報委員 山浦敬子）

《訂正とお詫び》

第48号友の会通信に掲載いたしました、下記の友の会柳応募作品に誤りがありました。

（正）図書館と 共に歩みて 半世紀

（誤）図書館と 友の歩みて 半世紀

作者の「あ〜ちゃん母」様、ご指摘ありがとうございます。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

友の会ホームページをご利用ください（QRコードをスマホでスキャン）



図書館友の会の最新情報をホームページで発信しています。毎月のイベントの情報やチラシ画像も掲載。「友の会通信」、「たんしん」のデータもアップ。これまでの「友の会ウィーク」の記録や、キーワード読書会の読書リストも掲載。友の会の会則や入会届もここから入手できます。
<https://katsutomo.jimdofree.com/>

シリーズ⑧ こんな本みつけた！ こんな本よんだ！

『文豪の死に様』 もんが みおこ 門賀 美央子 著 （誠文堂新光社刊・2020年発行）

このところの体調不良が久しぶりに落ち着いたので、2月に開催された友の会の読書クラブ第15回の読書会に参加した。今回は文豪・川端康成の名作『雪国』がテーマであった。

いつものように活発な議論や感想が交わされ、女性の発言も多く、とても楽しかった。この小説は、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という出だしと劇的なラストシーンの不思議な結末で知られている。さらに戦前の、今では想像もできない主人公島村と、芸者駒子の不思議な男女関係が展開されるのだが、僕の関心は、ノーベル賞作家であり、数々の名作を発表し、作家としては絶頂期にありながら、川端が自殺を遂げたことにあった。死因はガス自殺であると言われているが、死に至る精神状態と苦悩が明らかでないという。

そんな時、＜作家の自殺＞というテーマで中央図書館の検索を辿っていたら、なんと上記の著書を見し、さっそく通読した。

じつに面白かった。余計なことだが、僕には『死に様』という字が読めなかった。〈しにざま〉なのか〈しによう〉なのか。結局スマホによると近ごろの若者語が定着したようだ。すでに少数となった昭和初期生まれ族の宿命か。

僕は中学生のころ、芥川龍之介に傾倒し、戦後少年期らしい死生観をいだいたものだ。この本には近代作家を代表する樋口一葉、有島武郎、永井荷風など10人の死が取り上げられているが、第1回の読書会で取り上げられた三島由紀夫や、僕らの記憶に残る太宰治などが外され、そのかわり芥川龍之介に重点を置くところに著者の意思があらわれていると思う。

確かにこの選択は難しいと思うが、全編を通じた詳細な記述は見るべきもの。

著者は、三島や太宰は知られ過ぎていと述べている。人間である以上、誰でも死ななければならないのは必定なのだが、自殺の問題は思わず何故？と絶句し、その理由を知りたくなるのも道理であろう。この書は、苦痛と別に、その人なりの事情と、そのような死の覚悟が与える感動も、人生の輝点であることを教えてくれそう。



（友の会会員 高橋 久郎）

☆☆☆☆☆☆ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！ ☆☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？ 友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は 1 口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、2023 年度年会費とご記入下さい。また 1 口 500 円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では 203 円、ATM からは 152 円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届は HP (<https://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

お問合わせ先：中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、川井さん、嶋田さん、佐藤さん） Tel 03-3607-9201

色えんぴつ

本屋さん。この世で一番好きな場所。でもどんどんなくなっていく場所。柴又にあった小さな新刊書店も古本屋もほぼ閉店。お茶の水の三省堂、東京駅八重洲ブックセンターといった大型書店も再開や建て替えで閉店▼そんななか、立石に新刊書店ができた情報。Twitter によれば立石の商店街あたりとの事で仕事帰りにウロウロ探したが見当たらない。再度検索したら、なんと日月定休、平日は 4 時半まで、土曜日でも 6 時までの営業との事。仕方なく土曜日に再トライ。商店街をちよいと曲がった路地に小さくてかわいい本屋があった▼セレクトブックショップ的で立石には不似合いな洒落た佇まい。そして置いてある書籍の点数は決して多くはないけど、私の欲しい本がある。大型書店をウロウロする事なく、欲しかった本が目の前にいっぱい！ 街の本屋さんに入ったら応援のため必ず一冊は買うようにしているのだが、こころはつい 2 冊 3 冊と抱えてしまう▼店主と波長が合うのかな。そんな人が多いのか、行けば本棚を見つめる人が必ずいるお店。立石の新刊本屋さん「ポテトチップブックス」。絵本や児童書もあり親子で行つても楽しいかも。Twitter でおすすめの本の紹介もしてくれる。もう好きな場所を失わぬよう応援していきたい。とは言つても、今日も Amazon からの本を受け取る自分がいるのだ。

（広報委員 阿部京子）